

文末の「는데」に対応する日本語の形式分析*

—韓国ドラマの日本語吹き替え版を用いて—

金 廷 珉**

(e-mail : kjm-0630@hanmail.net)

<目次>

- | | |
|------------|---------------------|
| 1. はじめに | 4. 考察 |
| 2. 調査方法と結果 | 4.1. 心的態度表出における対応関係 |
| 2.1. 調査方法 | 4.2. 情報提示における対応関係 |
| 2.2. 調査結果 | 4.3. 情報要求における対応関係 |
| 3. 分析 | 5. おわりに |

キーワード：는데(*nuntey*)、文末(sentence-final)、韓国ドラマ(Korean drama)、対応形式(counterpart)、日本語吹き替え(Japanese dubbing)

1. はじめに

本研究の目的は韓国語の「는데」に対応する日本語の形式を分析することである。具体的には韓国ドラマの日本語吹き替え版の用例を用いて、文末の「는데」がどのように表れているのかその使用実態を調べ、日韓両言語間における対応関係の明確化を試みる。従来の日韓対照研究では「는데」に対して「けど」や「のに」が対応関係にあることを前提に、諸形式との異同をめぐって議論が進められてきた(Park1998、池2018など)。

「는데」と「けど」は(1)と(2)のように文中(従属節)に生じた場合、主節とは対比的な事態を述べたり、背景事情を説明する際に用いられる点で共通する。また、(3)と(4)のように主節を同伴せず文末(中断節)の位置に用いられ、自分の意見を断定しない、聞き手に対して何らかの反応や行

* 本研究は日本学術振興会(JSPS)科学研究費補助金(若手研究(B)課題番号：JP16K16830)の助成を一部受けて行われたものである。

** 亜細亜大学、准教授、日韓対照言語学

動を促す際に用いられる(日本語記述文法研究会2008、白川2009、장경현2012など)点でも類似している。

- (1) 서로 사양들만 하시는데 그러면 제가 먼저 하겠습니다. (이익섭2005:382)
- (2) 一生懸命勉強したけれど、合格できなかった。(日本語記述文法学会2008:260)
- (3) 이거 어떻게 될지 알 수 없는데? (장경현 2012:127)
- (4)お客さまがお見えになりましたけど。(日本語記述文法研究会2008:262)

しかしながら、日韓対照の観点から論じた最新の研究である金(2018、2019)によると、両者には以下の3点のような相違点が見られた。(i)「는데」の使用頻度が「けど」よりも高い、(ii)「는데」は文中(従属節)よりも文末(中断節)での出現頻度が高いのに対して、「けど」はその逆の傾向が見られる、(iii)「는데」は「けど」よりも「終止形」に対応することが最も多い。

そこで本研究では金(2018、2019)の後続研究として、「는데」が韓国ドラマの日本語吹き替え版においてはどのように現れるのか、出現位置(文中と文末)による使用頻度を比較し、「文末」の「는데」に対応する日本語の形式を分析する。さらに、「는데」が用いられた発話場面と日本語の対応形式との関係についても考察を行う。

本稿の構成は次の通りである。続く2節では調査方法を簡単に説明し、結果を提示する。3節では調査結果を踏まえて、日韓両言語の対応形式を分析する。4節では「는데」が使用された発話場面と対応する日本語の形式との関係について考察を行う。最後に5節でまとめと今後の課題を示す。

2. 調査方法と結果

2.1. 調査方法

本研究の調査方法について簡単に説明する。まず、<表1>に示す韓国原作ドラマの1話～5話までの台詞¹⁾と、その日本語吹き替え全文の書き起こし作業を行い、出現位置(文中と文末)による「는데」の使用頻度²⁾及び文末の「는데」に対応する日本語の形式を調べた。

1) 今後より多くの用例を集めていく必要があるが、今回は作家の文体的特徴、ドラマのジャンルの多様性を考慮して、複数の作品より試験的にそれぞれの5話までを対象に用例を収集した。

<表1> 分析対象のドラマ

ドラマ名	放映年度	放送局
① 커피 프린스 (コーヒープリンス)	2007	MBC
② 꽃보다 남자 (花より男子)	2009	KBS
③ 미남이시네요 (美男ですね)	2009	SBS
④ 공부의 신 (勉強の神)	2010	KBS
⑤ 프로포즈大作전 (プロポーズ大作戦)	2012	TV CHOSUN

分析対象を<表1>のドラマに絞った理由は、近年韓流ブームの影響により多くの韓国ドラマが日本で公開(放映)されているが、その中で正式にDVD版が発売されており、かつ、日本語吹き替え音声付きの作品を選定した。なお、字幕版に比べて吹き替え版はその数に限りがあること、韓国では日本のドラマや映画の韓国語吹き替え版の製作がほとんど行われないという現状を鑑み³⁾、今回は韓国語を基準言語にして日本語を眺望する方法を採る。

以上、調査方法について簡単に述べてきた。次節では調査結果を提示する。

2.2. 調査結果

まず、分析対象としたドラマの発話数を作品別にまとめたものを<表2>に提示する。以降便宜上、ドラマの作品名は<表1>の番号で記す。

<表2> 作品別発話数

ドラマ作品	①	②	③	④	⑤	合計
発話数	3,020	2,652	3,580	3,380	2,368	15,000

次に<表3>に発話数に対して「는데」が占める比率と、出現位置(文中と文末)による「는데」の使用頻度を、<表4>には作品別生起頻度の詳細をそれぞれ順に提示する。

2) 文中、文末の分類において判断に迷う例もある。しかし、省略、倒置、復元可能性などの判断は研究者によって恣意的であるので、本研究では形態的な基準を優先させつつ(高木2018:59)、イントネーション(上昇、下降調)を十分考慮した上で用例の分類を行った。

3) 子ども向けの日本のアニメーションの韓国語吹き替え版はあるようである。

＜表3＞ 出現位置による「는데」の頻度

出現位置	頻度 (%)		出現位置	頻度 (%)
文中	365 (2.43)	840 (5.60)	文中	365 (43.45)
文末	475 (3.17)		文末	475 (56.55)
発話数の合計	15000		合計	840 (100.00)

＜表4＞ 作品別「는데」の生起頻度

ドラマ作品	①	②	③	④	⑤	合計
文中	114	71	81	51	48	365
文末	131	84	116	71	74	475

＜表3＞と＜表4＞に示される通り合計発話数15,000例のうち、「는데」は840例出現しており、全体の約5.60%の割合で使用されている。また、作品別に若干の偏りは見られるものの、いずれも「文中」(365例,43.45%)よりも「文末」(475例,56.55%)における出現頻度が高く現れ、先行研究(金2018)を支持する結果が得られた。

次に、文末の「는데」に対応する日本語の形式を調べた結果は＜表5＞の通りである。

＜表5＞ 文末の「는데」の対応形式

形式	用例数 (%)
が	1 (0.21)
から	10 (2.11)
けど	47 (9.89)
て	4 (0.84)
し	9 (1.89)
条件形	6 (1.26)
のに	45 (9.47)
のだ	61 (12.84)
終止形	204 (42.95)
その他	88 (18.53)
合計 (%)	475 (100.00)

＜表5＞を見ると、文末の「는데」に対して「が」「から」「けど」「て」「し」「条件形⁴⁾」「のに」「のだ」「終止形⁵⁾」「その他」(意識、訳なしなど)⁶⁾の合計10

4) 「条件形」とは「～しなければ、～なきゃ、～したら」などの条件形式で発話を終了している中断節の例を指す。

5) 「終止形」に終助詞が下接した場合も「終止形」に含めた。

6) 該当する台詞が欠如している例、言い回しなど意識された場合を「その他」に分類し、分析対象から除外する。

種類の対応形式が見られた。「その他」を除いた上位3位までの形式に注目すると、「終止形」(204例,42.95%)>「のだ」(61例,12.84%)>「けど」(47例,9.89%)の順に対応の比率が高い。日本語の「終止形」が最もよく対応しているということは、韓国語では発話を「는데」で終止する中断節(言いさし)が多用されているのに対して、日本語の吹き替え版では「けど」などの接続助詞による中断節よりも、言い切りの独立文が多用されていることを意味する。

以上の調査結果を踏まえて次節では、文末の「는데」が使用された発話場面と日本語の形式との間にどのような対応関係が見られるのかについて分析する。

3. 分析

ここでは文末の「는데」と日本語の対応形式を分析する枠組みとして、「는데」が使用された発話場面を分類する。分類にあたっては이은미(2012)、장경현(2012)、高木(2018)などの先行研究を適宜参照して、大まかに以下の3つに分類した⁷⁾。

・ 「는데」が使用された発話場面の分類

① 【情報要求】

相手(聞き手)に新たな情報を求めたり、先行発話(文脈)に対して(再)確認する場面。

- (5) 금강산: 왔어요. 잔디부: 누가?
 금강산: F4 잔디부: 그게 뭔데?
 금강산: 신화그룹 후계자 구준표요.

- (6) 고은찬: 엄마! 엄마!
 은찬母: 잠깐만. 나 이거 좀 쓰고 나중에 밥 차려 줄게.
 고은찬: 뭐 쓰는데?

② 【情報提示】

・ 対話者による明示的な情報要求(質問)に対する応答発話として、要求された質問に対する実質的な答え(情報)を述べる場面。

7) 今回採集した用例に基づいてボトムアップ的に分類を設けたが、この分類に定まらない例も当然あり得る。

(7) 최한결: 전세 값이 얼마인데?

고은찬: 왜요? 그만큼 주시게요? 한 500정도 되는데.

對話者による明示的な情報要求によらず、話者が聞き手の知らない情報(事柄)を伝える場面。

(8) 최한결: 문 열렸어요.

고은찬: 식사 왔는데요.

최한결: 거기 식탁에 좀 놔 줘요.

고은찬: 예.

③ 【心的態度表出】

話者の主観的な評価や判断など、様々な心的態度を表す発話場面。

必ずしも聞き手を必要とせず、話者自身の認識を独話的に述べる場合も含める。

(9) 강백호: 누구세요?

타임컨덕터: 누구냐는 것보다는 내가 여기 왜 왔는지를 물어보는 게 좋을 텐데.

(10) 태경: 생각보다 비데가 위험한데. 조심해야겠어.

以上、「는데」が使用された発話場면을3通りに分類した。この分類に基づいて、<表5>において対応の比率が高く現れた、上位3位までの日本語の形式—「終止形」「のだ」「けど」—が、「는데」の使用文脈とどのような対応関係にあるのかを調べた。その結果は<表6>の通りである。

<表6> 「는데」の発話場面と日本語の対応形式

發話場面	終止形	のだ	けど	合計(%)
① 情報要求	34 (57.6)	24 (40.7)	1 (1.7)	59 (100.0)
② 情報提示	77 (60.8)	21 (17.6)	27 (21.6)	125 (100.0)
③ 心的態度表出	93 (72.7)	16 (12.5)	19 (14.8)	128 (100.0)
合計	204	62	47	312

<表6>を見ると「는데」は、「心的態度表出」(128例)>「情報提示」(125例)>「情報要求」(59例)の順に出現頻度が高い。次に「는데」の発話場面と、日本語の3つの形式—「終止形」「のだ」「けど」—との対応関係の分布を降順に並べ替えると、以下のようになる。

心的態度表出: 「終止形」(93例, 72.7%)>「けど」(19例, 14.8%)>「のだ」(16例, 12.5%)

情報提示: 「終止形」(76例, 60.8%) > 「けど」(27例, 21.6%) > 「のだ」(22例, 17.6%)

情報要求: 「終止形」(34例, 57.6%) > 「のだ」(24例, 40.7%) > 「けど」(1例, 1.7%)

「情報提示」と「心的態度表出」の発話はいずれも「終止形」>「けど」>「のだ」の順に対応の度合いが高いのに対して、「情報要求」は「けど」よりも「のだ」のほうが高い。以上の結果を踏まえて次節では、それぞれの発話場面の事例に基づいて考察を行う。

4. 考察

まず、全体的な対応関係を見ると、3つの発話場面ともに「는데」に「終止形」が最もよく対応している点で共通する。この結果は日本語に比べて韓国語における中断節の使用頻度の高さを示唆するものと考えられる(金珍娥2019)。また、韓国人日本語学習者に文末の「는데」に対応する日本語を取り上げる際には「けど」だけでなく「終止形」についても言及する必要があるように思われる。

以下では発話場面別に「終止形」「のだ」「けど」のそれぞれの形式が「는데」に対応している場合について見ていく(8)。

4.1. 心的態度表出における対応関係

まず、「는데」が「終止形」と対応している具体例を示す。両者は(11)話し手が聞き手に対して肯定的評価を述べる発話、(12)相手の考えとは対照的な意見を提示する場合に最もよく対応していた。

(11) 한유주: 어때? 「どう?」

최한결: 얼마예요? 「いくらですか。」

모자가게 주인: 만원입니다. 어우 굉장히 잘 어울리시는데요(↑)

「1万オオンです。とてもお似合いですよ。」 (①-1話)

8) 訳出された吹き替えを見ると、「終止形」「けど」「のだ」の3形式は相互にどちらかに置換可能な例も見られたり、3者の線引きが判然としないケースもある。また、いわゆる洋画の日本語字幕や吹替には自然な日本語とは言えない台詞が多いという指摘もある(井上2017:108)。しかし、日韓の対比分析において吹替の(不)自然さまで考慮に入れると、議論があまりにも煩雑になるため、本研究ではそこまでは立ち入らない。

(12) 잔디모: 근데 재는 변호사를 할 거야 모델을 할 거야?

「彼女は弁護士とモデル、どっちを選ぶのかしら。」

잔디모: 당연히 변호사를 해야지 그렇게 어려운 시험까지 붙었는데.

「そりゃあ、同然弁護士だろ、難しい試験に受かったんだ。」

금강산: 난 모델이 더 좋던데.

「ほくだったらモデルがいいな。」

잔디모: 이래서 남자들은 단순하다는 거야.

「ああ、これだから男ってバカって言うのよ。」(②-2話)

次に、「는데」が「けど」に訳されている例を提示する。両形式は、話者の心的態度を表す場面であっても、特に推測や判断を表すモダリティ形式「것 같다」にさらに「는데」を付加して、自分の意見を断定しない形で述べる場合によく対応していた。

(13) 백현: 저 사람 좀 짹짹해. 「あいつなんか怪しい。」

풀잎: 왜? 난 괜찮은 거 같던데. 「そう?私はそう思わないけど。」(④-5話)

(14) 오민지: 잔디야. 구준표랑 사실이야? 「牧野さん、道明寺さんと本当に?」

금잔디: 그런.. 아니지 그거 우연히 겹쳐서 그런 거야. 순전히 사고야 사고.

「くあー違うよ。あれは偶然が重なっただけのただの事故なの。」

오민지: 하지만 정말 좋아하는 거 같던데?

「でも向こうは本当に好きみたいだけど。」(②-4話)

一方で発話内容の事柄が(15)話者の心中を告白・吐露する場合、(16)話者が新たに認識した事態を独り言的に述べる場合には、「のだ」と対応している傾向がみられた⁹⁾。

(15) 한유주: DK랑 헤어졌어. 「DKと別れたわ。」

최한성: 알고 있어. 너 유명하잖아. 신문에서 봤다.

「知ってるよ。お前有名だもん。新聞で見た。」

한유주: 다시 만나고 싶은데. 「もう一度、やり直したいの。」(①-2話)

(16)=(10)의再掲

태경: 생각보다 비데가 위험한데. 조심해야겠어.

「このビデ結構強いんだな。気をつけよう。」(③-1話)

9) 「のだ」の用法の詳細については野田(1997)などを参照されたい。

4.2. 情報提示における対応関係

情報提示は話し手が聞き手の知らない何らかの情報を伝える発話場面であるが、<表6>で確認したように「終止形」との対応率が「のだ」と「けど」に比べて顕著に高い。

(17)質問に対する実質的な答えを述べる、(18)話者が第3者(他人)から聞いた情報を聞き手に言い伝える発話場面において、韓国語では「는데」止まりにしているのに対して、日本語では「終止形」または「終止形+終助詞」を用いて表されている例が最も多い。

(17) 한수정 선생: 다 왔지? 백현이 어디 갔니? 「みんないる?ペクヒョンはどこなの?」
봉구: 아직 안 왔는데요. 「まだ来てません。」 (④ 1話)

(18) 홍사장: 모레까지 단수라는데? 가게문 닫지?
「明日まで断水らしいぞ。休業しよう。」
최한결: 가게 영업시작한지 얼마나 됐다고 문을 닫아요? 생수라도 사서 영업해야죠.
「始めて間もないのに休むわけにはいきませんよ。ミネラルウォーターを使って営業します。」 (① 5話)

次に情報提示の「는데」に「けど」が対応している(19)を見られたい。

(19)=(8)の再掲

최한결: 문 열렸어요. 「どうぞ空いてますよ。」
고은찬: 식사 왔는데요. 「出前ですけど。」
최한결: 거기 식탁에 좀 놔 줘요. 「そのテーブルにおいて。」
고은찬: 예. 「はい。」 (①—1話)

(19)は「문 열렸어요」という「한결」の声をはっきりと認識できなかった「은찬」が、出前の料理が届いたことを知らせている場面である。出前が届いたら出前を頼んだ人は玄関先で料理を受け取るなど、何らかの動作をとるのが普通であるのに、ドアが開いているにもかかわらず誰も応対してくれない状況に置かれた「은찬」が、「는데」を伴う「식사 왔는데요」を投げかけることによって「한결」に適切な行動をとってもらおうとしている。このように、聞き手に情報を提示することによって聞き手の認識状態を変え、ならんかの行動や反応を促す(日本語文法記述研究会2008、白川2009)場面では、「는데」に「けど」がよく対応していた。

一方、同じ情報提示においても(20)のように他人には知りえない話者自身にまつわる事柄を伝える場面では「のだ」で表されていた。

- (20) 한유주: 저녁 안 먹었지? 미트볼 먹자. 「夕飯まだでしょ?ミートボール食べよ!」
 최한결: 나 미트볼 안 먹는데. 「俺は好きじゃないんだ。」 (① 2話)

白川(2009:167-168)によると、「けど」は対人的モダリティ形式を伴った独立文との平行性が見られ、「けど」を「よ」「ぞ」「ね」などの終助詞に言い換えることができる。この点を踏まえると、例えば(17)は「けど」を付加した「まだ来てませんけど」、(18)の「ぞ」を「けど」に置き換えた「断水らしいけど」、(19)は逆に「けど」を終助詞「よ」に置き換えて「出前ですよ」という日本語訳も可能である。しかし、今回の日本語の吹き替え版でも、また、これまでの一連の研究(金2018,2019)においても、韓国語の「는데」には「けど」よりも「終止形(+終助詞)」が対応している例が圧倒的に多かった。ただ、このような傾向が、外国語から日本語への対訳や吹替に見られる、いわゆる翻訳調の文体であるのか、それとも、そもそも日本語の話し言葉において、相手に情報を提示して何らかの行動や反応を期待する際に「けど」を使った表現よりも、「終止形(+終助詞)」の独立文の使用頻度の方が高いのかについては検証する必要があると考える。今後の課題にしたい。

4.3. 情報要求における対応関係

最後に、「는데」が聞き手に何らかの情報を求めて質問する発話について考察する。前節まで見てきた「心的態度表出」と「情報提示」の場合と違って、「情報要求」の発話では「終止形」(34例, 57.6%)、「のだ」(24例, 40.7%)のように、両者が約6:4の割合で対応していることが分かる。

「는데」は「무엇/뭐」(何)、「왜」(なぜ)、「어디」(どこ)などの疑問詞を伴う質問文(=以下、「는데疑問文」とする)の用法がある。たとえば、(21a)のように疑問語+指定詞(이다)に「는데」が承接した場合と、(21b)のように述語以外の部分に疑問語が用いられた場合がある。

- (21) a. 疑問語+ㄴ/인데? 원데? 누군데?
 b. 疑問語~述語+는데? 어디가 마음에 안 드는데?

「는데」と「けど」を対照分析したPark(1998)は、「는데疑問文」の用法は「けど」には欠如していると指摘している。しかし、「けど」はそもそも疑問詞とは共起しない(例:*誰ですけど?, *どこが気に入らないですけど?)という点で、韓国語の「는데」とは形態・統語的な違いがある。したがって、「는데疑問文」に「けど」がほとんど対応していないことは当然の帰結のように思われる¹⁰⁾。

本研究の調査を通して相手に新たな情報を求める「는데疑問文」に対して、「のだ」が最も頻繁に対応していることが分かった。以下、具体例を見られたい。

(22)=(6)の再掲

고은찬: 엄마!엄마! 「お母さん!」

은찬母: 잠깐만. 나 이거 좀 쓰고, 나중에 밥 차려 줄게.

「ちょっと待って。先にこれを書いちゃってからご飯の支度するわね。」

고은찬: 뭐 쓰는데? 「何書いてるの?」 (①-2話)

(23) 금잔디: 누가 부탁했어? 누가 너한테 부탁했냐고, 세상 사람 다 죽고 남은 사람이 너 하나라도 너한테 도움 안 받아.(中略)

「誰が頼んだんだよ。あんたに慰めてなんて。地球上であんたと二人で生き残ったとしても助は受けない。」

구준표: 대체 어디가 그렇게 싫는데? 어디가 맘에 안 드는데? (②-2話)

「ちよっ、おい、な、いったいどこが嫌いなんだ。完璧じゃないかよ。」

日本語の疑問詞質問文について分析した林(2015:169)は、「の」の有無による文意の大差はないものの、質問をする場面の状況によって、時にはどちらか一方しか使えないことを指摘したうえで、「の」があったほうが自然な場合として、(i)目前の事実の詳細・真相を訪ねる、(ii)受け入れがたさ・意外さを表明する、(iii)原因理由を訪ねる、(iv)相手が握っている正解を聞き出す、の4つを挙げている。

この指摘を踏まえて(22)～(23)に再度注目してみると、(22)では母に「これを書いた後に食事の支度をする」と言われた娘の「은찬」が、「母が(X)を書いている」という状況を踏まえて、書いている(X)が何であるか、(X)の情報を要求している。(23)は「준표」が、

10) <表6>を見ると情報要求の「는데」に「けど」が対応している例が1例だけ見られている。該当例を見ると、(例)최한성: 거기서 뭐해? 아 뭐 감추는데? 「何してるの?何か隠してるけど。」(① 3話)のように、隠しているものが「何であるか」を訊いている韓国語の台詞に対して、「何か隠してる」のように話者の主観的な推測を述べるような訳になっている。

「잔디」にいったい自分の「どういうところが嫌いなのか」を尋ねている場面である。いずれも「는데」が使用されており、日本語では「のだ」が対応している。

仮に(22')と(23')のように「는데」なしの質問文にすると、非文になるわけではないが、先行文脈との関連性が薄くなる。

(22') 고은찬: 뭐 써? 「何書いてる?」

(23') 구준표: 대체 어디가 그렇게 싫어? 「いったいどこが嫌いだ?」

さらにこれと関連して「는데疑問文」と「는데」なし疑問文の微妙な違いが分かる例として(24)を見られたい。

(24) 태경: 이거 뭐야?

「何だこれは?」

미남: 형님, 보셨습니까?

「テギョンさん、気づかれました?」

태경: 니가 갖다 둔 거야?

「お前がこれを?」

미남: 네, 혹시 배고플 때 드십시오. 「はい、おなかが空いたらどうぞ。」

태경: 뭔데?

「何だ?」

미남: 아, 그거는 죽이구요, 그거는 찻니다.

「そっちがお粥で、そっちの方はお茶です。」 (③-4話)

何かが置いてあるのを目の当たりにした「태경」の1回目の質問は、「이거 뭐야?」(何だこれは?)の「는데」なし疑問文になっている。これに対して、続く「미남」の発話「혹시 배고플 때 드십시오」(おなかが空いたらどうぞ)を受けても置いてあるものの正体が明らかにされず、その中身(X)について情報の追加を要求する2回目の質問において、「는데疑問文」が用いられている。つまり、「는데疑問文」は先行発話(文脈)の状況と関連づけてその背景にある、さらなる情報を求めて質問する際に用いられるという特徴があり、日本語の「のだ」と機能的類似性が見られる。

しかし、すべての「는데疑問文」に「のだ」が対応するわけではない。(25)の2回目の質問に出現している「는데疑問文」には「のだ」が使用されていない。

(25) 강선생 친구: 내가 방금 특A급 정보를 입수했다. 「つい先、ものすごい特ネタが入った。」

강선생: 또 뭔데?

「今度は何だ。」

강선생 친구: 니가 말은 병문고 말야. 그 학교 있는 동네를 왕봉 그룹에서 접수할 모양이야.

「例のヒョンムン高校だ。あの辺いったいをワンボングループが買い占めるそうだ。」 (④—1話)

(25)は友達に特ネタの真相を問うシーンにおいて「のだ」は用いられていない。(24)も(25)も(21a)の疑問詞に「는데」が下接している例であるが、仮に(25)を「何なの?」のように「のだ」で締めくくると「詰問のニュアンス」(林2019:51)が感じられるため、「終止形」で訳されているものとする。

日本語の「のだ」といえば、自然な日本語において欠かせないほど頻出、多用される形式として知られており、これまで膨大な先行研究の蓄積がある。日韓対照研究においても韓国語に比べて「のだ」の使用頻度の高さ、使用文脈の広さが指摘されている(印2003、Kim and Horie2009、金珍娥2019など)。しかし、これはあくまでも「のだ」に対応する韓国語の形式を、形態・統語的に類似している「것이다」(主に平叙文のみ)に限定して対比した結果である。本調査を通して確認できたように、「는데」と「のだ」が疑問詞を伴う質問文に用いられた場合を比較すると、日本語よりも韓国語のほうが「는데」を用いて先行発話(文脈)との関連性を、より積極的に明示しているものと思われる¹¹⁾。

以上、「는데」の発話場面と上位3位までの日本語の対応形式、「終止形」「のだ」「けど」との対応関係について考察してきた。

5. おわりに

本研究では韓国語の「는데」に対応する日本語の形式をめぐって、韓国原作ドラマ5作品とその日本語吹き替え版の用例に基づいて対応関係の分析を行った。その結果は以下のようにまとめられる。

- (i) 出現位置による「는데」の使用頻度：文中(363例, 42.21%)よりも文末(477例, 56.79%)のほうが高い

11) 日本語の「し」と韓国語の「고」中断節の対比においても、「고」のほうが先行文脈との関連性をより明示的に示す傾向にあるという結果が得られている(金2017,2019)。

- (ii) 文末の「는데」に対応する上位3位までの日本語の形式：終止形 (204例, 42.95%) > のだ (61例, 12.84%) > けど (47例, 9.89%)の順に対応の度合いが高い。
- (iii) 「는데」の発話場面と日本語の対応形式の関係(降順)：
- 心的態度表出：「終止形」> 「けど」> 「のだ」
- 情報提示：「終止形」> 「けど」> 「のだ」
- 情報要求：「終止形」> 「のだ」> 「けど」

本研究を通して日本語の吹き替え版においても「는데」は「けど」よりも「終止形」と対応する場合が最も多いことが再確認された。また、「는데」が多用される発話場面の頻度と、日本語の対応形式との関係を明示できた点で研究の意義があると考え。この結果を踏まえると、韓国人日本語学習者を対象とした日本語教育の現場において、文末の「는데」に対応する日本語の形式を取り上げる際には、「けど」のみならず「終止形」や「のだ」のほうがより自然な発話場面も視野に入れていく必要があると思われる。ただ、今回は「終止形+終助詞」も「終止形」に含めているため、終助詞の種類と「는데」の意味用法との対応関係についても細かく見ていく必要がある。また、日本原作ドラマや映画の韓国語訳(もしあれば、韓国語吹き替え版)も含めてさらに用例を収集していき、今回得られた結果の一般化を検証する必要がある。すべて今後の課題としたい。

【参考文献】

- 이은미(2012) 「화용론적 관점에서 본 「けど」의 문말의 사용양상」 『일본연구』 제 52호, 한국 외국어대학교 일본연구소, pp.361-380.
- 이익섭(2005) 『한국어문법』, 서울대학교출판부, p.382.
- 장경현(2012) 「연결어미에서 기원한 종결어미의 의미 연구— ‘-고/-는데’의 담화 의미 기능을 중심으로—」 『한국어 의미학』 38, 한국어의미학회, pp.109-134.
- 井上逸兵(2017) 「字幕・吹替訳ディスクの社会言語学—ポライトネス研究の一展開—」 『社会言語学』、朝倉書店、pp.107-124.
- 印省熙(2003) 『日本語の「のだ」と韓国語の「것이다」の対照研究』、お茶の水大学大学院博士論文.
- 金廷珉(2017) 「発話末の「고」に対応する日本語の形式—ドラマの会話文を中心に—」 『日本語文学』第72輯、韓国日本語文学会、pp.91-108. (DOI: <http://dx.doi.org/10.18704/kjll.2017.03.72.91>)
- _____ (2018) 「「けど」と「는데」の使用実態に関する日韓対照研究—共起形式の種類と頻度を中心に—」 『日本文化学報』第78輯、韓国日本文化学会、pp.397-414. (DOI: <http://DOI.org/10.21481/jbunka..78.201808.397>)

- _____ (2019) 「英語台詞の日韓対訳集における中断節の特徴分析」 『日本語学研究』 第61輯、韓国日本語学会、pp.37-52. (DOI: <http://dx.doi.org/10.14817/jlak.2019.61.37>)
- 金珍娥(2019) 「日本語と韓国語の談話における<述語文>の様相—<話されたことば>の文末を解析する—」 『朝鮮学報』、朝鮮学会、pp.85-138.
- 白川博之(2009) 『「言いさし」文の研究』、くろしお出版、pp.167-168.
- 池玫京(2018) 『接続表現の多義性に関する日韓対照研究』、ひつじ書房.
- 高木丈也(2018) 『日本語と朝鮮語の談話における文末形式と機能の関係』、三元社、 pp.59.
- 日本語記述文法研究会(2008) 『現代日本語文法6 第11部複文』 日本語記述文法研究会(編)、くろしお出版、pp.260-262、p.292.
- 野田春美(1997) 『「の(だ)の機能」』、くろしお出版、pp.117-143.
- 林淳子(2015) 「Wh疑問文において「ノ」の有無が問題になるとき」 『日本語学論集』 第11号、東京大学大学院人文社会系研究科国語研究室、pp.168-187.
- _____ (2019) 「ノ無し疑問文と代弁的質問」 『国語と国文学』 96(1)、明治書院、pp.47-61.
- Kim Joungmin and Horie Kaoru(2009) Intersubjectification and Textual Functions of Japanese *Noda* and Korean *Kes-ita*, In: Takubo, Yukinori et al (eds.), *Japanese/Korean Linguistics* 16, Stanford: CSLI, pp.279 - 298.
- Park Yongyae(1998) Interactive Grammar: The Turn-Final Use of *nuntey* in Korean and *kedo* in Japanese, David J. Silva(Ed.). *Japanese/Korean Linguistics* 8, CSLI, pp.45-59.

논문 투고 일자 : 2019. 12. 29.
논문 심사 일자 : 2020. 01. 28.
게재 확정 일자 : 2020. 01. 30.

 <要旨>

 文末の「는데」に対応する日本語の形式分析
 —韓国ドラマの日本語吹き替え版を用いて—

金廷珉

本研究では韓国語の「는데」に対応する日本語の形式をめぐって、韓国原作ドラマ5作品とその日本語吹き替え版の用例に基づいて対応関係の分析を行った。その結果、以下のようなことが分かった。

- (i) 出現位置による「는데」の使用頻度：文中(365例, 43.45%)より文末(475例, 56.55%)の方が高い。
- (ii) 文末の「는데」に対応する上位3位までの日本語の形式：
終止形(204例, 42.95%) > のだ(61例, 12.84%) > けど(47例, 9.89%)の順に対応の度合いが高い。
- (iii) 「는데」の発話場面と日本語の上位3つの形式との関係：
心的態度表出：「終止形」 > 「けど」 > 「のだ」
情報提示：「終止形」 > 「けど」 > 「のだ」
情報要求：「終止形」 > 「のだ」 > 「けど」

この結果を踏まえると、韓国人日本語学習者を対象とした日本語教育の現場において、文末の「는데」に対応する日本語の形式を取り上げる際には「けど」のみならず「終止形」や「のだ」のほうがより自然な発話場面も視野に入れていく必要があると思われる。

 An analysis of Korean sentence-final *nuntey* and its Japanese counterparts
 :Using data from a Korean original drama and its dubbing in Japanese

Kim, Joung-Min

This study aims to analyze Korean sentence-final *nuntey* and its Japanese counterparts, using data extracted from a Korean original drama and its Japanese dubbed version. In particular, the focus is on the frequency of *nuntey* and its Japanese counterparts and the relationships between the context in which *nuntey* occurs and the high ranking Japanese counterparts. The results of this study are summarized as follows.

- (i) Distribution of *nuntey* in each position of occurrence:
Sentence-medial position (365 tokens, 43.45%) > Sentence-final position (475 tokens, 56.55%)
- (ii) The three high ranking Japanese counterparts of sentence-final *nuntey* :
Sentence-final verb form > *noda* > *kedo*
(204 tokens, 42.95%) (61 tokens, 12.84%) (47 tokens, 9.89%)
- (iii) The corresponding relationships between contexts where sentence-final *nuntey* occurs and the three high ranking Japanese counterparts:
To express a speaker's subjective attitude: sentence-final verb form > *kedo* > *noda*
To indicate information toward an addressee: sentence-final verb form > *kedo* > *noda*
To request information from an addressee: sentence-final verb form > *noda* > *kedo*